

大信寺からのお知らせ

平成19年11月16日

大信寺住職 岡田真幸
護持会会長 千金楽勝夫
護持会 役員一同

護持会役員会 会議報告

期 日 平成19年11月11日(日)午後3時～

議 題

1. 役員交代の件
2. 護持会会費納入の件
3. 今年度会計中間報告

議事

役員交代の件

裏大黒地区担当として、神山幸一氏が就任いたしました。(鯨井定義氏の後任)
前大黒地区は引き続き、鯨井氏が担当いたします。

護持会会費納入の件

大信寺護持会会費の額の変更はなく、各地区役員を通じて会計まで12月16日までに納入することが決定されました。

今年度会計中間報告

平成19年1月1日から現在まで、収入・支出ともにございませぬ。

現在の残高は1,373,536円です。

納入のお願い

邑楽町町内は各地区役員が集金にお伺いしますので納入のほどお願い申し上げます。

町外の方は、12月12日までに
大信寺にご持参いただく
または、銀行振込をご利用下さい。

住職 大本山増上寺で修行

住職は10月24日より31日までの8日間、大本山増上寺での「璽書(じしょ)道場」の修行に臨みました。

「璽書道場」は既に「宗脈・戒脈相伝」の浄土宗僧侶がさらに浄土宗義の奥秘の相伝を受けるための修行です。

「璽書」とは本来、君主・天皇が玉璽を押した文書のことで、その文書には少しの誤りもないことが

ら、浄土宗では奥義相伝の「相伝手次書」に署名璽印して、古来のものと何の誤りもないものとしています。

「璽書」の起源は嘉禎3年(1237年)8月1日、二祖聖光弁長上人が三祖良忠上人(鎌倉光明寺の開山上人)に授けた「末代念仏授朱印」の「念仏往生浄土宗血脈(けちみやく)相伝手次の書」にあります。

剃髪して入山し、8日間、道場では新聞もテレビも携帯電話もパソコンもなく、俗世から切り離され、早朝5時の起床に始まる念仏、誦経、礼賛三昧であり、9時から4時まで奥伝の講義がありました。

修行の目的として、第1に、僧侶となつてからの30年間に自己流になりがちな法式(仏前作法)の復習、第2に、より深い宗義の修得、第3に、僧階を進めるためのステップなどです。

27～71歳の83名(尼僧3名)と生活し、全国に知人ができました。「三日坊主」と言われますが、三日で止めてしまうのではなく、「三日我慢すれば、後は慣れる」が本来の意味であることも実感できました。



増上寺へ寄進

宗祖法然上人八百年大遠忌(入滅後800年)が平成23年に迎えることにあわせ、総本山知恩院、大本山増上寺などから各寺院へ寄進の懇請がありました。

そこで、大信寺会計から増上寺へ懇請金額どおり、22万5千円を寄進いたしました。

この寄進により、増上寺大殿改修、安国殿新築などの建設工事が施工されます。

知恩院への寄進は、平成21年を予定しています。

行事のお知らせ

除夜の鐘 11時10分から突き始め

「除夜(じょや)」とは「旧年を除く夜」という意味で、12月31日の大晦日の夜をいいます。大晦日(おおみそか)の夜、鐘は108突きます。

除夜の鐘をつき、その音を聞くことによって、この1年のうちに作った罪を懺悔(さんげ)し、罪を作る心を懺悔し、煩惱(ぼんのう)を除き、清らかな心になって新しい年を迎えましょう。

大信寺の鐘を皆さんで突き、煩惱を除き、清らかな心身で、新年を迎えましょう。

11時10分から突き始め、12時10分には108回になります。

上州邑楽七福神めぐり

大信寺には、七福神のうち布袋尊をお祀りしており、布袋の寺としても知られています。邑楽七福神めぐりで新春をスタートしてみませんか。

期日 1月 5日(土)
1月12日(土)
4月 5日(土)

に開催されます。

シンボルタワーを出発し、町内2.3kmを歩きます。問合せは、鈴木隆行氏へ(電話:0276-88-4709)

講演「仏像の起源」のご案内

住職が次のとおり講演を行います。まだ、定員まで余裕がありますので、是非、お越し下さい。

長柄公民館町民教養講座

知識のひろば「長柄塾」

日時 12月8日(土) 午後2時~3時30分

会場 長柄公民館

講師 岡田真幸

テーマ 仏像の起源

~仏像はどうしてパンチパーマなの?~

参加費 無料

問合せ先 長柄公民館(0276-89-0123)

<お話の概要>

釈迦は実在した人物であるから、釈迦如来像は人間の姿をしているのは分かるが、阿弥陀如来像や大日如来像など仏像はどうして人間の姿をしているのか。釈迦は出家して剃髪していたはずなのに、なぜ、釈

迦如来像は有髪でしかもパンチパーマなのか。その他、なぜ、頭が二重になっているのか、どうして耳が大きいのか。

これらの疑問をガンダーラ(パキスタン北部)、マトゥラー(インド北部)にて仏像が誕生した経緯を通じて解説する。

また、シルクロードに沿ってガンダーラから西域、中国、朝鮮そして日本へと仏教の東漸とともに仏像の変化・発展を敦煌莫高窟、雲崗石窟(中国)での取材記を織り交ぜながら追ってみる。

仏陀坐像(写真) 高さ28cm (大信寺本堂蔵)

ガンダーラ(アフガニスタン ハッダ)出土

ストッコ(化粧漆喰)製 3~4世紀

シヨトル寺院趾の基壇側面を飾っていた坐像と思われます。しかし、1979年、ソ連軍のアフガニスタン

侵攻に対抗したアフガングリラの軍事拠点となったため、全て破壊されてしまいました。

この坐像は、それ以前に、パキスタン人によって剥ぎ取られ、パキスタンのバザールで転売されて、国外流出したものとされます。



ありがとうのこころ

ほのぼのとしたお地藏さんです。

にわ ぜんきゅうさん画のタオルをお使いいただき、手そして心もお清め下さい。

日ごろの感謝を込めてお贈りいたします。



墓地分譲中

境内の墓地を分譲しています。お知り合いの方にご紹介下さい。

区画 奥行2m 幅1.8m

永代使用料 50万円

基壇施工費 95万円